

『さんまの塩焼きさんへ』 竹井月渚

私は、もうすぐ高校生になるから、これを機に、いつも仲良くしてくれたさんまの塩焼きさんにお手紙を書いたよ。

さんまの塩焼きさんと初めて出会ったのは私が幼稚園に通っていた頃で、もう十年くらい前のことだね。その時はほんのたまに会うぐらいで、私は母親と一緒にいることが多いから、二人きりで会ったことはなかつたね。

しかも、さんまの塩焼きさんの全部はまだ知らなかつたよ。私がさんまの塩焼きさんの全てを知つたのは、小学四年生くらいの時だつたね。もう目がまん丸になつたよ。「なんだこれは。」つていう驚きしか感じなかつた。少し悪口になるけど、正直に言うと、骨が邪魔で食べづらくて、その骨が口に刺さつて死ぬかと思った。内臓を食べたら、吐き出すくらいまづかつた。あの頃の話だけね。でも、中学生三年生になつて少し大人になつた私は、ち

やんとさんまの塩焼きさんの良さを知ることができたよ。知るまでにすごく苦労したけどね。実は、ユーチューブでさんまの塩焼きさんをきれいに扱えるようになる方法を学んだり、親に教えてもらつたりして、何度も挑戦したんだよ。知らなかつたでしょ。おかげでさんまの塩焼きさんのおいしさや、大根おろしきくんと仲が良いことも分かつたよ。今では、母親に「さんまの塩焼きさんに会いたいな」って訴えているよ。まだ、内臓は苦手だけど、もつと大人になつたら、内臓までさんまの塩焼きさんの良さとして受け入れられるようにしていきたいな。

これからも、一生付き合つていく仲だと思ふから、お互いの短所を長所に変えて、充実した人生を一緒に送つていこうね。高校生になつたら、今度自分一人でさんまの塩焼きさんとのところに会いに行くからよろしくね。昔も、今も、未来でも、ずっと大好きだよ。